

町外の高校生 × 川根本町

聞いて、書いて、感じた
「名人」の心意気



8/6「聞き書き甲子園」成果発表会を開催

山村開発センターで「千年の学校」公開講座「『聞き書き甲子園』成果発表会」が開催され、町民約30名が参加しました。「聞き書き甲子園」は、全国の高校生が国内各地の森・川・海の「名人」を訪問し、一対一の対話によって、その知恵や技・心、さらには人生そのものを聞き書きし、作品集として

発信する取組です。昨年の秋に、8名の高校生が町内で聞き書き取材を実施しました。発表会では「聞き書き甲子園」実行委員長の澁澤寿一さんによる講演のほか、久野脇地区で聞き書き活動を行う井関早弥香さんが事例発表を行いました。また、町内で聞き書き取材を行った高校生4名と、取材を受けた名人6名のうち、土屋鉄郎さん（水川区）、相藤令治さん（藤川区）、水口眞夫さん（久保尾区）、大村雄一郎さん（沢間区）、梶川榮市さん（上長尾区）、竹野達三さん（崎平区）が出席し取材秘話を披露しました。なお、作品集は町公式ホームページおよび町内2カ所の図書室にて閲覧できます。

久野脇地区の住民を対象に庭の果樹を題材に聞き書き取材を行い、雑誌を刊行しています。長い年月を共にしてきた果樹について話を聞くと、その方の人生や地域の暮らしを垣間見ることが出来ます。活動をきっかけに果樹の存在価値を見直し、地域活性化へ活用していくことも期待されます。



静岡大学大学院
総合科学技術研究科
農学専攻 修士2年
井関 早弥香 さん

「聞き書き」とは、その人がどう生きてきたかを追体験し、自分自身の生き方や社会のあるべき未来を見つめ直すことです。社会構造も「働くことの意味」も激変するこの時代、脈々と続いてきた人々の暮らしや想いを次の世代へとつないでいくことで、持続可能な社会の実現へと近づけるものと信じています。



NPO法人共存の森
ネットワーク理事長
澁澤 寿一 さん

ひとつのことを積み重ねてきた人が「名人」と呼ばれるのだと感じました。自分が身をもって感じた川根茶の魅力を、多くの人に伝えたいです。

大嶋 勘太 さん

普段飲んでいる美味しいお茶は、代々の茶農家さんが紡いできた歴史の賜物であり、たゆまぬ努力がそれを支え続けていることを知りました。

國田 葵 さん

「百聞は一見に如かず」というように、自分の目で現場を見るのが重要だと感じたので、これからもその気持ちを大切にしていきたいです。

清見 陽香 さん

狩猟に興味があり猟師である名人への取材を希望しましたが、実際には狩猟だけでなく、「山の名人」であることが求められると学びました。

松村 温人 さん

